

家計と消費

現代社会

憲法

政治

経済

国際社会

これから

今日の問い

家計の収入と支出にはどんな種類があり、どう使い分けるとよいのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 家計と収入・支出

収入と支出

かけい
家計

家庭を単位とする経済の主体。

きゅうよしとく
給与所得

会社などで働いて得る収入。

しょうひしゅうつ
消費支出

食費や住居費など、暮らしに使う支出。

家庭を単位として収入を得て、それを使って生活する経済の主体を**家計**という。家計は、企業や政府と並ぶ経済の担い手である。家計は労働力を企業に提供して賃金を受け取り、そのお金で企業の商品を買う。こうして家計・企業・政府の間をお金や物が循環している。家計の収入には、会社などで働いて得る**給与所得**(賃金)、自分で事業をして得る事業所得、預金の利子や株式の配当などの財産所得がある。

支出には、食費・住居費・教育費・娯楽費など、暮らしに使う**消費支出**と、税金や社会保険料などの**非消費支出**がある。収入から税金などを引いた、自由に使えるお金を**可処分所得**という。可処分所得のうち、消費しなかった分は**貯蓄**にまわされる。収入が限られているため、何にいくら使うかを考えて支出を決める必要がある。家計簿をつけると、お金の使い方を見直しやすい。収入が同じでも、支出のしかたしだいでは貯蓄できる額は大きく変わる。



2 消費生活と貯蓄

賢い消費

あんぜんせい
安全性

元本がへるおそれが小さいこと。

りゅうどうせい
流動性

必要なときにすぐ現金にできること。

しゅうえきせい
収益性

利子や値上がりなどの利益が大きいこと。

収入が不安定な時期や、将来の病気・老後・進学などにそなえて、収入の一部を貯蓄する。貯蓄の方法には、銀行などの預貯金、株式や債券の購入、保険などがある。どれを選ぶかは、**安全性・流動性・収益性**の三つで考える。この三つをすべて満たす方法はなく、目的に合わせて組み合わせることが大切である。たとえば預貯金は安全性が高く、株式は収益性が高い反面、値下がりして損をするおそれがある。

買い物のときの支払い方も多様になっている。**クレジットカード**は、カード会社が代金を立てかえ、後日利用者が支払うしくみで、手もとに現金がなくても買えるが、使いすぎると返せなくなる。電子マネーやQRコード決済などのキャッシュレス決済も広がっている。買い物は、本当に必要かを考え、計画的に行うことが大切である。契約の内容や手数料も、よく確かめてから利用したい。

問いへの答え

家計の収入には給与所得や事業所得、財産所得があり、支出には消費支出と、税金などの非消費支出がある。収入から税金などを引いた可処分所得の使わない分は貯蓄になる。貯蓄では安全性・流動性・収益性のどれを重視するかを考え、支払いも計画的に行うことが大切である。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

